

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100314		
法人名	特定非営利活動法人 かしわ		
事業所名	グループホーム かしわ		
所在地	群馬県高崎市箕郷町柏木沢 586-5		
自己評価作成日	平成24年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成24年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設が一番アピールしたいところは、利用料が良心的で利用者とその家族の方々にとっては、期限の無い生活を安心して過ごして頂ける事 又全職員が認知症サポーターと応急手当の基礎知識講習を受けていることです。自衛隊の近くに位置しており、高台にて前橋・高崎が一望に見渡す事が出来、夏の夜は花火があちらこちらに咲きほこる様子も見えます そんな中で9名の利用者さんが自由にゆったりとした日々を過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆったりと、自由で安らぎのある、個人の尊厳を大切に」を理念に掲げ、職員は入居者に対し人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち日々接し、互いに支え合い、安心・安全な生活が送れるよう支援している。入居者は、公民館で毎月開催される「サロン」に参加し、お茶を飲み体操や折り紙を行う等、地域の人達と楽しい一時を過ごしている。また、散歩時には地域貢献として空き缶やゴミ拾いを行い近隣の人達と挨拶を交わしたり、農作業中の人に飲み物を差し入れ野菜を頂いたり、地域との交流を大切にしている。また、運営推進会議は、家族に事業所の活動状況を知ってもらい信頼関係を築くことを目的に、家族が出席し易い土曜日に開催し、全家族に案内状を発送・電話で参加を要請し、7家族程が出席しており、会議終了後は家族の希望等を聴くための個別面談を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人達とゆっくりと安らぎのある個人の尊厳を大切に……理念は職員全員が共有し理念に沿い実践している。	理念を食堂兼居間や事務室に掲げ、意識づけを行っている。朝の申し送り時にケアについて話し合い、必要に応じ管理者が指導・助言を行うなかで、理念を振り返り、共有しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での行事の際又は地域のサロンの行事の際にお互いに声掛けをし合い交流を図っている。散歩中に挨拶を交わし合い、畑にて作業中の住人にお茶の差し入れをし、収穫時には野菜等頂き良き関係を保っている。	町主催の農業祭や農林大学校の文化祭を見物、箕輪城太鼓のボランティアが訪問、地域貢献として散歩時に空き缶やゴミ拾いをしている。また、公民館で毎月開催される「サロン」に参加し、お茶を飲み、体操や折り紙を行う等一緒に楽しんでいる。近隣で農作業中の人に飲み物を差し入れ野菜を頂くなど、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者一人一人と地域のサロンの方達との交流の場を設けふれあいを持ってもらい理解してもらえる様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の日程は、家族の希望である土曜日に行い半数以上の参加の中、サービスの実態を報告し、家族・区長・民生委員・市職員の方々と意見交換を行いサービス向上に活かしている。	家族に事業所の活動状況を知ってもらい信頼関係を築くことを目的に、家族が出席し易い土曜日を開催日として、全家族に案内状を発送・電話で参加を要請し、7家族程が出席している。会議では事業報告や意見交換を行い、地域代表者からの情報提供の場となり、会議後は家族の希望を聴くための個別面談を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の主催する農業祭、催し物には可能な限り利用者と共に参加している。	市の担当者とは、運営推進会議の際に情報交換を行っている。会議の案内状や議事録を持参した時に介護情報を得て、運営について指導・助言を頂くなど、連携を図りながらサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が周知徹底し身体拘束をしないケアに努めている。職員は身体拘束をしないケアについては職員全員が理解している。玄関の施錠はせず入浴時等の必要時において安全確保のために門扉の施錠を行っている。	身体拘束に関する外部研修受講後は、申し送り時に報告すると共に、資料をコピーし全職員に配布し理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は行わず、入浴時等職員の目が届かない時間帯は安全確保のため、門扉の施錠を一時的に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の生活がまんわり化していく中で虐待が見過ごされる事がない様注意し又防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設にも該当する利用者がいる。弁護士に依頼してある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、料金改定等は利用者の入所時、家族を含め納得出来るまで説明をし理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置してある。不満・要望等意見を出して頂き運営に反映させる様努めている。運営推進会議終了後個人的に意見を聞き又利用者には言わずらい意見は介護相談員さんを通じて個々に聞き取りをして頂き意見の収集に努めている。	家族の面会時に入居者の様子を伝え、要望を聞いている。運営推進会議には数多くの家族の出席を得て、終了後に家族と個別面談を行い、意向把握に努めている。また、介護相談員が来所し入居者の意向把握を行い、結果は口頭で報告を受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の中で提案、又意見を出してもらい、その都度話し合いを持ち反映させている。管理者は、業務上での意見や提案を職員からだしてもらい、その都度話し合い運営に反映するよう努めている。	毎朝の申し送り時や昼休みに、オムツ交換やトイレ誘導・声掛けの仕方などを話し合い、統一したケアに努めている。管理者は、職員から随時意見や要望・提案を聞くよう努め、勤務表の作成に当たっては職員の希望を反映し、研修受講は順番で参加できるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修を通して介護者としての能力向上に努めやりがいのある仕事、環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の向上の為、順番で研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交換研修を行いサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の生活の中で利用者の変化の見のがしがないようチェックをし個々の利用者との話を聞く機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて施設を利用する家族、利用者には詳細を説明し、不安がない様支援している。連絡は密に取り家族と施設とで利用者を支援できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人がどんな事を希望しているかを早く見極め、その人に合った生活が出来る用支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来ることは手伝ってもらい、人生の先輩として尊敬の気持ちを持ちお互い支え合い過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の状況を家族に報告し家族と本人の絆を大切にしながら、共に本人を支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人には気軽に来所出来る様、家族を通して声掛けをしている。	入居者が元気うちに馴染みの場所に行けるだけ多く外出するよう家族に働きかけ、家族と共に墓参りに出かけた時、家族が友人を連れて来たりなど、馴染みの場所や人との関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度が重度化して行く中で利用者同士上手に関わりが持てる様、職員がパイプ役をし、皆で支え合って行ける様な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報を提供する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の思いや暮らし方の希望を取り入れ困難な場合は、本人の希望を尊重し援助している又入所前の生活歴、職歴を聞き把握し本人自身どう生活して行きたいのかを考えながら行っている。	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、互いに支え合い過ごしている。入浴時の1対1の時に要望を聞き、長年の生活歴を重視し、できることはしてもらったり、入居者同士の会話の中から入居者の希望を汲み取ったりしている。また、意思表示の難しい人には声かけし反応を観察しながら、思いや意向の把握に努め、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの生活歴をくわしく聞き、出来る限り、その人にあった生活が出来る様努め、得意なことを生かし喜びにつながる様援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のケアチェック(バイタル・排泄・入浴・睡眠時間・食事量)現状の把握に努め、心身の変化にも気配り見落としの無い様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の指導、サービス担当者会議での意見、家族本人の意向、要望等多くの情報を出し合い、本人がその人らしい生活が出来る様介護計画を作成している。	本人・家族の意向や個別日誌等を基に、介護支援専門員が毎月モニタリングを行うと共に、介護計画作成の直前にケアチェック・アセスメントを行い、職員によるサービス担当者会議で話し合い、6ヶ月毎の介護計画を作成している。作成後家族に郵送し、電話で説明・確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子(ケア記録、日勤簿、夜勤簿等)を個別に記録し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GH単独型であり、認知症対応型共同生活介護のみの支援である(通院、買い物等には応じている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのサロンの方々のお誘い(月一回の行事等)にも利用者と参加し地域の人達とふれ合いを持ち、楽しいひと時を過ごしている。又散歩時には何か出来ないかと空き缶拾いや、ゴミ拾いなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を大切にし主治医と事業所との関係を築きながら、安心して適切な医療が受けられる様支援している。	職員が同伴し、本人・家族が希望するかかりつけ医に受診し、必要に応じ往診する医師もいる。協力医は月2回往診している。入居者の1人は家族が送迎し、家族の都合が悪い時は職員が対応し、受診結果は相互に報告・共有し、安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた変化や気付きがある場合、職場内の看護職員者に相談し助言を求め適切な対応に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の症状に応じて医療機関との情報交換を蜜に取り、以後治療が安心して受けられる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方については、入所時に施設側の出来る範囲の事については、理解し納得してもらい、施設内にいる限りベストを尽くす。	医療行為を伴う時は入院とし、重度化し食べ物が口から摂取できなくなった時は他の施設へ移ること並びに事業所での看取りは行わないことを契約時に説明し、家族は理解し納得している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備える為、全ての職員が救命講習を受講しているが、更なる実践力を身に付ける様、定期的な訓練を図りたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で地域住民、民生委員、参加で年2回の総合訓練(消火、避難、通報)を消防署、業者立会いの上実施している。又緊急マニュアルや災害に備え備蓄も準備してある。	緊急時連絡網を整備し、年2回の避難訓練のうち1回は、消防署の指導を受け初期消火・通報・夜間想定訓練を行い、近隣の人達も参加している。また、緊急避難用品・食糧や飲料水の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時はさり気なく声掛けを行い失禁時の後処理等についても見守り、気付かない様、フォローを行う等、一人一人の人格を尊重したケアに努めている。	トイレ誘導はさりげなく耳元で囁き、失禁者には他の入居者に気づかれないよう居室で介助している。また、職員は、入居者を人生の先輩として尊敬の気持ちをもち日々接し、互いに支え合い、ゆったりとした自由な生活が送れるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何か要望がありそうな様子をくみ取りさり気なく声掛けをし、一対一で話し合える環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者の希望を取り入れ、楽しく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人の好みを生かし、その人らしいオシャレや身だしなみが保てる様支援している(二ヶ月に一度出張美容師を利用)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は季節の鮮度の良い材料を取り寄せている敷地内で育てた野菜等も加え調理している。週2回は利用者の好みでパン食や麺類等を皆で考案し、下準備から盛り付け、後片付けと得意な人は職員と一緒に楽しみと努めている。	日曜日と木曜日は3食ともメニューの無い日とし、入居者の希望によりパン食や麺類・すしなど好みの食事を提供している。また、入居者はじゃがいもの皮むき等調理の下拵えや盛り付け、お手拭き配り等を行い、職員も同じ食事をとり楽しい一時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は一人一人チェックし不足しない様配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、夜間は義歯を預り消毒を毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導により排泄の自立支援を行っている。又頻尿、尿意便意のない方には細かい時間でおったチェック表を用意し排泄に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、しぐさなどを観察し声かけを行い、適時のトイレ誘導により、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、毎日のラジオ体操や繊維質の多いサツマイモやバナナ等をおやつに提供するなど、快適な便通につながるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食の食材として繊維質を含む物を取り入れ、水分摂取の工夫や朝のラジオ体操も日課にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面、健康面を考慮した上で利用者の希望に合わせた入浴をおこなっている。入浴時に家族の話や昔話をする中でその人の希望や思いを聞くよう努めている。又季節のゆず湯、菖蒲湯等を取り入れ楽しんでいる。	月・火・金・土を入浴日とし、2班に分けて週2回の入浴を楽しめるようにしている。毎日入浴剤を使用し、季節毎にゆず湯や菖蒲湯を行っている。職員は入浴時に家族の話や昔話などを聞き、思いや意向を把握するよう努めている。入浴を拒否する人には、日を変えて誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の希望により就寝時間、照明、騒音等にも配慮して休息出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の用法や副作用や用量については全職員が把握しており症状の変化を見のがす事なく確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に応じ、その人が張り合いの持てる様環境を整え喜びのある生活が送れる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	安全面、健康面を考慮した上で利用者の希望に沿い利用者全員で参加出来る様支援している。日常的に近隣の散歩、桜、菖蒲、あじさい等の花見に出かけたり、又地域の神社へ初詣に行き外出を楽しめるよう支援している。	散歩は、日常的に行っている。入浴日でない水・木曜日は外出行事の日とし、入居者の希望を取り入れ、初詣や花見・敷島公園のバラや浜川公園の菖蒲見物に出かけている。また、家族の協力を得て墓参り等に行っている。	現在取り組んでいる外出支援について、事業所の記録として整理されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の理解が出来る利用者には希望に応じて使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じてその都度電話等のやりとりが出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの天井には青空が描かれおり、又天窓があり、全体が明るく、テーブルには季節の花が置かれ、壁には利用者の作品や写真等があり、心地よく過ごせる空間になっている。	食堂兼居間の天井には青空が描かれ、天井の扇風機が温度調整を行っている。テーブルには菊が活けられ、入居者の共同作品であるクリスマスのはり絵や行事の写真が飾られている。また、畳コーナーには炬燵が用意され、くつろぎの場となり、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人自由に過ごせる様、コタツ、ベンチ等ゆとりのある空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には手作りの表札が掛けられ分かりやすく、居室には馴染みの家具やTV等、又本人作の折り紙等の作品や好みの置物など自由に飾られ心地よく過ごせる様支援している。	テレビやタンス・机が持ち込まれ、ベッドの位置は家族や入居者の意向で配置されている。多数の小鉢に草花が植えられたり、庭から採った菊が活けられたり、買い物行事で購入した造花や折り紙の花が飾られるなど、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心した日常生活が送れる様安全な環境作りに配慮し一人一人自立した生活が送れる様支援している。		